

EG 328

T/Bartholomaeus Crassellius(1695)

Dir, dir, o Höchster, will ich singen

1 とうときわが神よ、くらぶるものなき主よ、
心貧しけれど、聖霊の力受け、
主イエスのみ名をあがめ われほめたたえ歌わん。

2 うるわしき歌もて 声高く歌うとも、
いかなる言葉もて 主のみわざ語るとも、
限りなきその恵み いかでのべ伝うべき。

3 いかに祈るべきか 弱きわれら知らねど、
深きうめきもて 聖霊 とりなしたもう。
み国の世継とされ「アッパ、父」とわれら呼ばん。

4 いかに幸なるかな、信じて求むる者、
その祈りすべてを 神は常にききたもう。
たぐいなき愛の主を とこしえにほめたたえん。

1 Dir, dir, o Höchster, will ich singen, denn wo ist doch ein solcher Gott wie du? Dir will ich meine Lieder bringen; ach gib mir deines Geistes Kraft dazu, dass ich es tu im Namen Jesu Christ, so wie es dir durch ihn gefällig ist.

2 Zieh mich, o Vater, zu dem Sohne, damit dein Sohn mich wieder zieh zu dir; dein Geist in meinem Herzen wohne und meine Sinne und Verstand regier, dass ich den Frieden Gottes schmeck und fühl und dir darob im Herzen sing und spiel.

3 Verleih mir, Höchster, solche Güte, so wird gewiss mein Singen recht getan; so klingt es schön in meinem Liede, und ich bet dich im Geist und Wahrheit an; so hebt dein Geist mein Herz zu dir empor, dass ich dir Psalmen sing im höhern Chor.

4 Denn der kann mich bei dir vertreten mit Seufzern, die ganz unaussprechlich sind; der lehret mich recht gläubig beten, gibt Zeugnis meinem Geist, dass ich dein Kind und ein Miterbe Jesu Christi sei, daher ich »Abba, lieber Vater!« schrei.

5 Was mich dein Geist selbst bitten lehret, das ist nach deinem Willen eingerichtet' und wird gewiss von dir erhöret, weil es im Namen deines Sohns geschicht, durch welchen ich dein Kind und Erbe bin und nehme von dir Gnad um Gnade hin.

6 Wohl mir, dass ich dies Zeugnis habe! Drum bin ich voller Trost und Freudigkeit und weiß, dass alle gute Gabe, die ich von dir verlanget jederzeit, die gibst du und tust überschwänglich mehr, als ich verstehe, bitte und begeh.

7 Wohl mir, ich bitt in Jesu Namen, der mich zu deiner Rechten selbst vertritt, in ihm ist alles Ja und Amen, was ich von dir im Geist und Glauben bitt. Wohl mir, Lob dir jetzt und in Ewigkeit, dass du mir schenkest solche Seligkeit.

ヨハネの黙示録2:9 「あなたは、はじめの愛から離れてしまった。だから、どこから落ちたのか思い起こし、悔い改めて初めの行いをしなさい。」(新改訳版)

日本でも、アメリカでも、10月30日を宗教改革記念日として記憶する人は、意外なほど少ないのです。日本やアメリカのプロテスタントは、宗教改革を経験していないのです。しかし、欧州では、16世紀を中心とする宗教改革という巨大な社会運動は、13世紀頃にはじまる感染症(ペスト)の危機のなかで起こり、感染症に強い都市環境(公衆衛生)を作り上げる努力のなかで、展開したことを振り返ることはとても重要です。

皆さんのなかには、「ハロウween」のお祭りのイベントを楽しみにしていた方も少なくなかったでしょう。残念ながら本年は、新型コロナ・ウイルスの感染防止のため、夜のイベントが大々的に実施されることはできないようです。

既にコロナ危機は、今年の第二四半期(4~6月)の経済活動に、1929年の大恐慌を上回るダメージをあたえました。第三四半期(7~9月)には、感染症を防止しながら、経済活動の再開への懸命の努力が続いています。アメリカの第二四半期のGDP成長率は、前期比年率マイナス32.9%という統計史上最大の落込みでしたが、第三四半期(速報)は、前期比年率33.1%と反転しました。なお、中国は既に第二四半期に、プラス成長に転じたと報じられています。

同時に、経済活動の再開は、アメリカのみならず、欧州でも、深刻な第二波の感染を招いてしまいました。特に、スペインやフランスの感染拡大が急速で、地域でロックダウンが発動されました。ドイツやイギリスでも、再度のロックダウンを強化する動きがみられます。医療現場の崩壊の危機が迫り、これに抗議する医療従事者のストライキも発生しています。

こうしたなかで、先進国の株式市場は活況が続き、不動産価格が低下する兆候はありません。異次元の金融緩和と巨大な財政出動がセットになり、結果的に国内の経済格差の拡大が助長されます。日本では、インバウンドのツーリズムの減退で地方都市で地価の下落もみられますが、東京首都圏は、依然として高水準を保っています。

こういう格言があるのをご存じですか。「バブルの最中には、それがバブルだとは判らない」。バブルが崩壊すると、企業や家計の「バランスシート」が棄損して、巨大なデフレ圧力がかかり、将来、金融危機が発生するリスクも高まるので、細心の注意が不可欠です。

今年のアドベント(待降節)は11月29日から始まりますが、欧州では、クリスマスのマーケットが中止に追い込まれています。これは、欧州に留学し、暮らした私にとっては、大きな喪失感を伴います。

それどころか、学生^の生活や心身への影響は、小さくないと思います。外出自粛で、引きこもらなければならず、アルバイトの減少は、経済的な困窮をもたらすほか、不眠やうつの危険を高めます。

オンライン授業は、感染の危険を下げ、負担感を軽減し、安心感を高めますが、対面授業を組み合わせていかないと、学生の皆さんのモチベーションを高めることが困難になっています。

しかし、欧州の大学の経験は、対面授業を、やみくもに増やすことは、キャンパスの過密を生み出して、クラスターの発生を招いてしまうのです。

本日の聖書で重要なのは、「あなたは、はじめの愛から離れてしまった」という部分です。そして、「あなたが、どこから落ちたかを思い起こし、悔い改めなさい」ということばこそ、ルターを宗教改革への行動に駆り立てたことは、文献のうえから明らかだと思います。しかし、そのことを知る人はあまりに少ないのではないでしょうか。

実に「初めの愛」というのには、まず「神様からの愛」であり、これに応える「神様への愛」であると思われまます。これから離れることは、私たちが、この世界と兄弟(人々)を憎む結果をもたらします。現代では、それが私たちの日常であり、神様から離れた生き方そのものです。

M. ルターは、生命の不安だけでなく、自分を否定するあらゆるものを経験しながら、自分が生きることを肯定してくださる(神様の)働きへの信頼を見出し、日々生きる勇気を得ていたと思います(イザヤ書43:2「恐れるな。私があなただを贖なったからだ。私はあなたの名を呼んだ。」)

間もなくアメリカの大統領選挙です。先週のトランプ大統領とバイデン候補の最終討論は、世界がコロナ危機の最中に世界各地で起きた差別や格差の拡大、大国間の対立にどう向き合うのか、真剣に議論する場とはなりませんでした。

宗教改革は、感染症と生命の不安を背景とし、固定化した社会秩序を超え、新たな社会を生み出す力をあたえました。私たちは宗教改革を聖書を通じて知ることによって、生きることの原点に返り、新たな勇気を得ることができるはずです。